

研究指定校名 : 倉吉市立河北小学校

1. 学校の概要

学校名	倉吉市立河北小学校
学級数	19学級(うち特別支援学級:6学級)
児童生徒数	全児童数:355人(令和2年1月1日現在)
URL	http://www.torikyo.ed.jp/kahoku-e/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

集団が変わり一人一人が輝く特別活動(3年次)

ー児童の主体的・対話的で深い学びを促すしかけと活動ー

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本校は、「人間尊重の基盤に立ち、ふれあいを大切にしながら、お互いの良さを認め合い、やさしく、たくましく生きる子どもの育成」を教育目標に、①学ぶ意欲をもち、学び方を身につける子ども②確かな学力を身につける子ども③友だちと協働して学ぶ子ども④思いやりと優しさをもつ子ども⑤あいさつをする子ども⑥健康でたくましい子どもをめざして教育活動に取り組んできている。朗らかでいろいろなことに興味や関心をもって活動することが好きな児童が多い。

平成26年度から3年間は、音楽科を中心とした研究を進めてきた。取組の結果、音楽科における授業や集会活動を通して自己表現できるようになり、友達とかかわり合いながら活動することの楽しさややりきった充実感を感じるなど多くの成果があった。しかし、これらの成果が他教科・領域や日常生活の中で十分生かされないという課題が残った。得られた成果を他教科・領域等に生かしながら、さらに「自分の思いを表現する力」「相手の思いを受け止める力」「自分で考え行動する力」を伸ばしていきたいと考え、その土台となる自尊感情を育成することが必要であると教職員で共通理解した。

そこで、平成29年度から3年間、校内の研究のテーマを「集団が変わり一人一人が輝く特別活動」とし、児童の自主的、実践的な態度を育て、望ましい人間関係を築き、協働的な集団活動を促していくことに力を入れていくこととした。

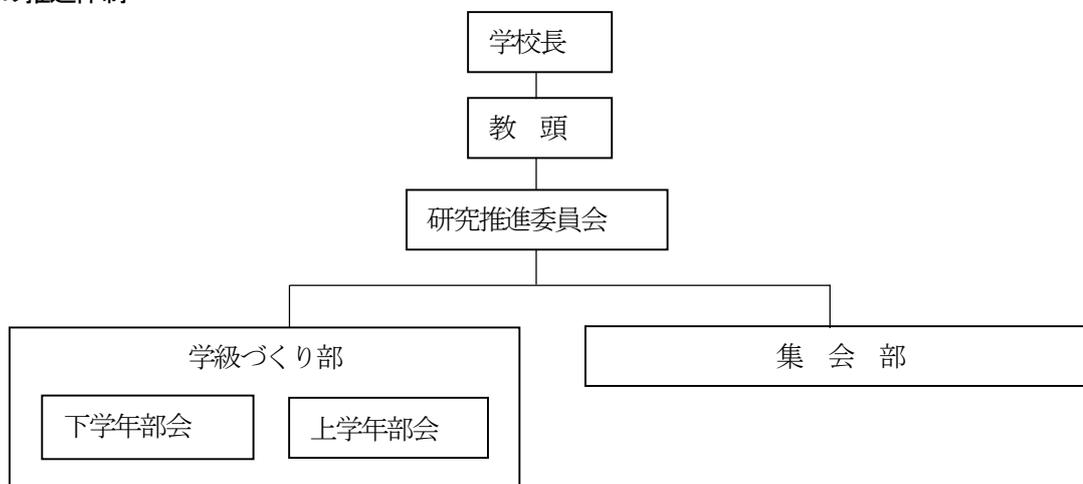
平成29年度、30年度の研究を通して、学級会で思いを伝え合ったり、代表委員会で話し合ったりして意思決定したことを努力して実践するなど自分たちの生活をよりよくするための自治的な活動を重ねてきた。その成果として、他者と協力して活動することの楽しさや成就感を体得し協働してよりよい学級・学校をつくらうとする児童が育ってきている。引き続きこれまでの研究の蓄積をもとによりよい集団づくりを継続し、一人ひとりの人権が尊重され、安心して学ぶことのできる環境をつくっていきたい。さらに、教育活動全体を通じて人権教育で育てたい資質・能力の育成も関連づけながら、児童一人ひとりを尊重し、児童が互いのよさや可能性を發揮し、生かし、伸ばし合うなど、よりよく成長し合えるような集団となるよう研究を深めていきたい。

(3) 取り組んだ人権課題(該当するものに○印。複数選択可)

①女性	<input type="radio"/>
②子供	<input type="radio"/>
③高齢者	<input type="radio"/>
④障害者	<input type="radio"/>
⑤同和問題	<input type="radio"/>
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	<input type="radio"/>
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	<input type="radio"/>
⑨刑を終えて出所した人	<input type="radio"/>
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	

⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他（仲間づくり）	○

3. 調査研究の推進体制



〈関係協力機関〉 ○鳥取県教育委員会 ○倉吉市教育委員会

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

平成29年度、30年度の研究は、「学級力会議」を取り入れ、学級の課題を見つけ、学級や学校をよりよくするために学級活動(1)の話し合い活動に力を入れてきた。「学級力会議」の意図や手法の共通理解・共通実践、学級会のスタイルの確立に努め、児童自らを学校を変える主体者として位置づけ、PDCAサイクルを回しながら教師と児童が一緒になって学級・学校をよくしていこうと取り組んできた。

平成30年度児童アンケート(1学期末と2学期末実施)結果を見ると、「あなたは、学級力会議や学級会の話し合いは好きですか」に対する肯定的回答は、63%→73%と向上が見られ、話し合いが定着しつつある。さらに、話し合い、話し合ったことを実践することでよりよい自分になったり、過ごしやすい学級・学校に変わってきたりしていることを実感し、話し合うことよさに気づいてきた。また、自分自身の成長も実感することもできてきた。同アンケートでは、「学級がまとまるように行動していますか」に対する肯定的回答は、70%→74%に向上している。

これまでの取組により、協働してよりよいものをつくっていくことや、課題解決のために話し合い、行動化につなげていくなど一定の成果が見られてきた。

さらに話し合いの質を高めていきたい。集団における合意形成では、同調圧力に流されることなく、批判的思考力を持ち、他者の意見も受け入れつつ自分の考えも主張できるようにすることが大切であると言われる。自分の考えを持ち、言葉で相手に伝えることができる力に加え、相手の考えを受け止め、自分の考えをさらに高めたり深めたりする力の育成が、今後必要であると考えている。

(調査研究の内容)

平成31(令和元)年度も、引き続き研究主題「集団が変わり一人一人が輝く特別活動～児童の主体的な参加と自律的な学びを促すしかけと活動～」を設定し、児童の自主的、実践的な態度を育て、望ましい人間関係を築き、協働的な集団活動を促していく特別活動を中心に、「自他の良さを認め、協働してより良いものをつくろうとする児童、思いを伝え合うことのできる児童、目標に向かって行動できる児童の育成」をめざして取り組んでいきたいと考える。個々の思いや考えが認められ、思いやりの心にあふれた安心して過ごすことのできる仲間づくりを人権教育の基盤にするとともに、学級活動や児童会活動の充実を図り、信頼し支え合って楽しく豊かな学級・学校生活をつくることを通して、自他のよさを認め合い、自尊感情を高めていきたい。

○相手のよさを見つけ、互いに協力し合い、自分の力を学級全体のために役立てようとする学級をめざす

ために学級力会議を開いてみんなで話し合うこと。また、その後の活動の充実（R P D C Aサイクル）を図ること。

○学級活動の授業研究会を実施し、互いのよさや可能性を生かしながら合意形成や意思決定となるような話し合いに係る指導力の向上をめざすこと。また、他教科・領域等へも成果を生かすこと。

○児童会活動等の充実に取り組み、児童の主体的な参加、自律的な学びを促すこと。

このような研究を行うことにより、「自他の良さを認め、協働してより良いものをつくろうとする児童、思いを伝え合うことのできる児童、目標に向かって行動できる児童」を育てることができようとする。

人権教育で育てたい資質・能力を関連づけ、友達とかかわり合いながら主体的に課題解決する取組を進めていくことは、人権が尊重される社会づくりの担い手として主体的に問題解決をしていこうとする態度の育成につながるものとする。

(実施方法)

①意識調査、実態調査

- ・「学級づくりアンケート」（児童）…めざす学級の明確化

4月に全児童・全職員を対象に学級づくりアンケートを実施した。そして、学校の「めざす姿」を4つの項目にまとめ、今年度の「河北の力」に設定した。

この4つの項目を「学級力アンケート」の項目とし、4つの視点で自分自身や学級、学校を見つめるようにした。子どもたち自身の気づきから作り上げる自分たちの目標であり、この目標を軸にその都度振り返ることによって、よりよい自分たちの姿をめざすことができた。また、河北小学校のよさをわかることから始めた。

【アンケートにより出された多くの姿】



- ・hyper-QU…学級の実態の分析と活用

1学期と2学期に2回実施した。学年部ごとにスクールカウンセラーを交えて研修会を実施し、内容分析を行いその後の学級経営へ生かした。

②授業研究

- ・授業研究会の実施

本年度は、昨年度までの学級活動（1）に加えて学級活動（2）と（3）の研究の充実に取り組んだ。全体研究会を2回、学年部研究会を4回実施した。教職員で協議するとともに、外部指導者・教育委員会指導主事等の指導助言により指導力の向上を図った。研究会で意見交換したことや指導助言いただいたことは、授業者が自ら発行する研究推進便り等で共通理解し、日々の共通実践に生かした。



学級活動授業研究会

③各部会の取組

学級づくり部

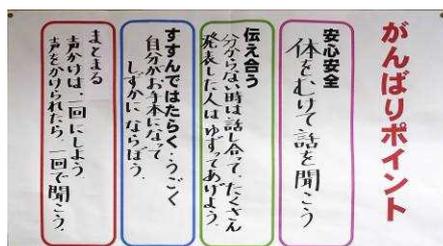
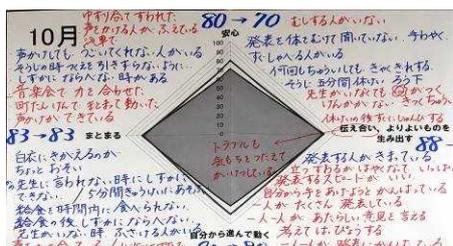
- ・学級目標づくりの工夫（ゴールの明確化と学校教育目標との関連）
- ・学級力アンケート→学級力会議→その後の活動（P D C Aサイクル）

年度当初に学級、学校目標を学級力として設定し、各学級で定期的に学級力の振り返りを行い、がん

ばりポイントの設定などを行い取り組んできた。学級力の指標は4点である。まとめとして、学級力アンケートを実施し、結果を考察した。

1. 「安心」については、8割の児童が肯定的回答をしている。安心した生活がおくれるように生活しようとする気持ちが育っている。
2. 「伝え合い、よりよいものを生み出す」については、伝えたいことを自信を持って伝えたりがんばろうとしたりしている児童は半分以上いるものの(約7割) 不安な気持ちや苦手意識を持っている児童もいることがわかった意欲と態度の両面で見えていく必要がある。
3. 「自分から進んで動く」については、8割の児童が肯定的回答をしている。当番活動や会社活動など進んで取り組み、よりよい学級学校にしようとする意欲がある。
4. 「まとまる」については8割の児童が肯定的な回答をしている。学級目標やがんばりポイントを意識して生活できている。

- ・レーダーチャート等、見える化を取り入れた指導の工夫をした。児童は、クラス会議で決めたがんばりポイントを意識して、日々生活することができた。



集会部

- ・全校仲良し班別集会、上下学年集会等を計画し実施した。上学年はもとより下学年においても事前に全員で下学年会議を行い、集会の内容を決定し準備した。下学年会議も児童の手によって上手に運営することができたのは、学級会の経験の積み重ねの成果であると考えられる。
- ・委員会活動活性化の工夫をした。各委員会で常時活動以外に自分たちで工夫して学校みんなに役立つ活動を作ろうと考えて自主的なイベントを考えて実施した。右は、「言われてうれしかった言葉を集めてふわふわツリーを作ろう」の取組の掲示である。自分たちの力で学校生活をよくしていこうという意識の高まりが随所に見られるようになった。



④校内研修会の実施

- ・特別活動に関する夏季職員研修会実施

指導者として授業研究会でもお世話になっている米子市立箕蚊屋小学校の太田敦弘教頭先生においていただき指導を受けた。今年度、取組を深めることにしている学級活動(2)と(3)について研修を深めた。

- ・校内研修会「子ども同士の対話で深まる教科学習」実施

本校の研究主題のもとに研修を深めるために会を開催した。講師に菊池道場主宰の菊池省三先生をお招きし研修を深めた。示範授業と講演を実施した。示範授業では、価値語でほめながら学習の構えを作ることや子どもたちの実態に合わせた指導を学んだ。講演では、「学級会で話し合いを成功させるための言葉かけと指導のポイント」「よい教室をつくる五つの視点と対話・話し合い指導の基本的な流れ」「コミュニケーションを人間関係ととらえて、1年間の見通しを持ち個の確立した集団、考え続ける人間を育てるための授業観を持つこと」などを学ぶことができた。

昨年度の事業を含めて菊池先生の来校指導は3回目になる。価値語による指導なども実践に生かされるようになってきており、今回はこれに加えて子どもたちの対話を充実させるために学ぶ機会を得た。示範授業では、価値語や拍手で子どもたちの対話を引き出す様子を見せていただいた。また指導技術も大切であるが、それ以上に教師の授業観が大切であることを学ぶことができ、日々の実践に生かされている。



価値語を用いた学級掲示

(検証・評価・普及)

【検証・評価方法】

- ①hyper-QU調査（年2回）を実施した。
 - ②学校評価アンケート（保護者、児童）を実施した。
 - ③学校関係者評価を実施した。
 - ④学校生活アンケート（児童 毎月実施）を実施した。
 - ⑤河北の力アンケート（児童 学期毎）を実施した。
- 上記各種調査により、成果と課題が明らかになった。

【成果】

- ・「河北の力」の取組を3年間続けてきたことにより、学級会等にかかわる共通実践が積み上がり、その中の児童の姿から、よりよいクラスを自分たちで作ろうとしていることが伺える。
- ・アンケート結果を経年で比較することにより、児童の意識の変容が見られた。

アンケート項目	昨年度1学期	今年度2学期	変容
「友達と力を合わせて活動するのは楽しい」	86%	91%	+5%
「学習中に思いを伝え合い、よりよいものを生み出している」	65%	73%	+8%

- ・「友達と力を合わせて活動するのは楽しい」と答えた児童が増加しており、集会をみんなで作っていくことのよさや楽しさを実感する児童が増えている。
- ・課題であった「深まりのある話し合い」については、「学習中に思いを伝え合い、よりよいものを生み出している」と答えた児童が増加している。自己の考えを発展させようとする意識が向上していることがわかった。

【課題】

- ・集団の力はついてきたが個の力がまだ弱いので、自己決定する力を伸ばしていく。
- ・「つながり」を意識したコミュニケーション力や表現力を高めていく。
- ・学級活動で培った力を他教科領域とつなげる実践を継続していく。

【普及】

- ①校内研修会を市内小学校に公開（9月30日 菊池省三氏研修会）
- ②倉吉市人権主任者会で前年度の成果報告を行い市内小中学校に普及（6月21日）
- ③事業報告会にて本年度の研究成果を報告（2月10日）

【継続】

- ・次年度も学級活動（2）（3）を加味した特活の研究に取り組み、実践を継続する。

(2) 実施結果

【本年度の取組内容】

時 期	内 容	備 考
4月2日	研究推進委員会（研究推進計画の企画・立案）	参加者 研究推進委員会 12人
4月3日	研究職員会（研究内容の検討・決定）	参加者 全教職員 28人
4月4日	専門部会（研究の具体化）	参加者 各部員 28人
4月15日	研究推進委員会・専門部会（研究スケジュール調整）	参加者 各部員 28人
4月25日	第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者 2人
5月中旬 5月28日	学級力会議 研究推進委員会（研究計画の報告確認と協議）	各学級 参加者 研究推進委員会 12人
6月7日	学年部事前授業研究会	参加者 学級づくり部会 18人
6月14日 6月21日	代表委員会 全体授業研究会 3年2組「学級活動(1)」 指導者 岡雄大教諭 指導助言 米子市立箕蚊屋小学校 太田敦弘教頭 県教育委員会人権教育課 西垣卓宏係長	参加者 全教職員 28人
6月25日 6月26日	市人権教育主任者会（昨年研究成果伝達） 学年部事前授業研究会	参加者 1人 参加者 学級づくり部会

	Hyper-QU研修会（各学級の実態把握と対策検討）	18人 参加者 全教職員 28人
7月2日	学年部授業研究会 2年2組「学級活動(1)」 授業者 尾古涼太教諭 5年1組「学級活動(1)」 授業者 横山耕治教諭 指導助言 中部教育局 笠見知枝指導主事 倉吉市教育委員会 川上指導主事	参加者 全教職員 28人
7月22日	学校評価アンケートの実施（児童） 音楽集会	対象 全学年児童 対象 全学年児童
8月6日	研究推進委員会（課題改善・今後の計画）	参加者 研究推進委員
8月19日	専門部会 ・学級づくり部（授業研計画） ・集会部（色別集会・音楽会・上下学年集会）	参加者 各部員 28人
8月23日	教職員研修会（特別活動） 指導者 中部教育局 笠見知枝指導主事	参加者 全教職員 28人
9月24日	代表委員会	
9月30日	校内研修会「子ども同士の対話で深まる教科学習」 講師 菊池道場主宰 菊池省三先生 倉吉市教育委員会 小川誠指導主事 県教育委員会人権教育課 山本裕児指導主事	参加者 本校教職員 26人 校外より 21名
10月15日	学年部事前授業研究会	参加者 学級づくり部 18人
10月30日	学年部授業研究会 1年1組「学級活動(3)」 指導者 八木雪恵教諭 6年1組「学級活動(2)」 指導者 宮崎百合子教諭 指導助言 県教育委員会人権教育課 山本裕児指導主事 中部教育局 宇山慎二指導主事 笠見知枝指導主事 倉吉市教育委員会 川上典孝指導主事	参加者 全教職員 28人
11月1日	事前授業研究会	参加者 学級づくり部 18人
11月11日	研究推進委員会（研究計画）	参加者 研究推進委員
11月15日	下学年会議	
11月16日	上学年会議	
11月19日	全体授業研究会 4年1組「学級活動(3)」指導者 田中政哉教諭 指導助言 米子市立箕蚊屋小学校 太田敦弘教頭 県教委人権教育課 山本裕児指導主事	参加者 全教職員
11月22日	上・下学年集会	参加者 全教職員
12月初旬	学校評価アンケートの実施（児童）	対象 全学年児童
12月9日	Hyper-QU検討会（現状把握・対策検討）	参加者 全教職員
12月23日	研究推進委員会・専門部会 （2学期の反省と今後の取組）	参加者 委員・各部員
1月6日	研究推進委員会（来年度の研究の方向）	参加者 研究推進委員
2月7日	音楽集会	対象 全学年児童
2月10日	第2回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 人権教育研究推進事業報告会	参加者 2人
2月19日	職員会（研究のまとめ）	参加者 全教職員

(3) 人権教育に係る年間指導計画 別紙